

CTO Hands-on Workshop

In **Nagoya Heart Center**

July. 5th 2013 9:00-18:00

Venue : Nagoya Heart Center

■ **Director** Etsuo Tsuchikane ,M.D.
Toyohashi Heart Center

■ **Instructor** Etsuo Tsuchikane ,M.D.
Toyohashi Heart Center

■ **Operator** Takashi Omura ,M.D.
Suzuka Central General Hospital
Akira Murata ,M.D.
Nagoya Heart Center



CTO Hands-on Workshop

■はじめに

冠動脈完全慢性閉塞病変（CTO）の初期治療成績は、我々の先人達の弛まぬ努力の積み重ねによる治療技術の開発やデバイスの改良により著しく向上し、その結果現在、日本が各種PCIデバイスでは世界に遅れをとっているにも関わらず、CTO分野では海外でも多くの衆目を集めています。しかしその恩恵が患者様に寄与するかどうかは、それに携わる医師に依然大きく依存しているのが現状です。CTO病変ほど様々な病変形態を有し、それに応じて臨機応変に柔軟な対応が必要とされるPCI手技はありません。従ってCTO治療に従事する医師には初期治療結果の向上のために、より多くの症例を経験し、知識・技術の習得に努めることが必要です。しかし、本邦のCTO治療の教育を取り巻く環境は、一術者の経験できる症例数に限界がある事が最大の問題点であり、このままでは世界を席卷してきた先人達の技術が十分に継承されることなく、世界でのリーダーシップすら失われてしまう可能性があるかと危惧しております。

本ワークショップは、CTO治療技術を国内各地域で普及させる事で患者様利益の向上を図る事、また各地域においてCTO治療に対して意欲のあるエキスパートを育てる事を趣旨に、特に若手医師を対象として2009年12月より開催して参りました。第一回開催以降2012年11月現在に至るまで、のべ32施設において62例のCTO症例を治療して参りました。ここで改めてこれまでご協力頂いた各施設の関係者の方々に御礼申し上げます。若手医師自らがオペレーターとして62例のCTO治療へチャレンジした結果、その成功率は94%と高い治療成績を残しております。この中でインストラクターが直接手を貸した症例は数例に過ぎません。また参加者は自身がオペレーターになったつもりで間近で症例を共有する方法論の下、各々の経験値を上げる事を最重要課題として参りました。32回目の開催を終えた2012年10月現在、全国各地で350名以上の先生方にご参加を得、通常のライブでは分からない細かいtips and tricksをいくらかは吸収して頂いたものと考えています。と同時に本会を通じて明らかになった事実もあります。それは「CTO治療に特別な技量を必要としない」と言う事です。必要なものは、各局面における判断力とそれに対応する「引き出し」の多さ、そしてちょっとした勇気なのです。言い換えると、知識と経験によりそれらを培えば、基本的技術と資質と意欲を有するPCI術者なら誰でもCTOのエキスパートになり得ると言う事です。今後も、各地域で本会を定期的に行うことで、地域におけるCTOのエキスパートが育成される事、さらには将来、本会の参加者の中から世界に通じるCTOのエキスパートが誕生することを期待しております。

■プログラム概要

9:00 10:00 12:30 13:30 16:00 17:00

Case Conference	Cath Lab Activities	Lunch Session	Cath Lab Activities	Case Review
-----------------	---------------------	---------------	---------------------	-------------

■Case Conference (術前ケースカンファレンス)

治療戦略を術前にインストラクター、オペレーター、参加していただいた先生方で相互に討論します。

■Cath Lab Activities (術室手技指導)

術前ケースカンファレンスで策定した治療戦略に基づき手技を行い、オペレーター及び参加者に対してインストラクターがデバイスの選択、基本的なカテ操作、ワイヤリングから、必要により高度な手技についても“懇切丁寧”に指導いたします。

■Case Review (術後ケースレビュー、相互交流)

手技終了後、インストラクター、オペレーター、参加していただいた先生方で治療内容及び結果を振り返り反省会、及び通常の縦社会を離れた若手医師間の相互交流を行います。開かれた横のつながりこそが、真に患者様に貢献できる医療であるからです。

Course Director 土金悦夫 (豊橋ハートセンター)、伊藤立也(名古屋ハートセンター)、鈴木頼快(名古屋ハートセンター)